

演題名：生活習慣病リスクとしての高インスリン血症と抵抗性の評価

～企業健診及び外来診療における活用とその意義～

【目的】主要生活習慣病は、肥満・メタボの脂肪組織過剰による不良サイトカイン分泌促進がインスリン（以下イと記載）良作用抑制での高血糖や代償不良イ過剰症（高イ血症）による危険因子の増強が要因である（これらを糖尿病新病名イ不全症として左記学会へ提案中）。トレラン G での一過性過血糖を避け、IGT・糖尿病とイ抵抗性の指標となる標準食で高イを検出し食事運動生活習慣指導に生かすことを目的とした。

【方法】健診で 42 名に標準食摂食（糖質 75g、脂質 29g、たん白質 25g）、2h 後採血、イ測定を追加。外来 34 名で保存標準食、主食 2h 後の血中イを測定。

【結果】健診：糖尿病 8.8%、IGT47%、肥満 29%、腹囲大 69%、メタボ 21%、高 TG 32%、高尿酸 29%、高イ 50%。イ不全症（血糖異常、高・低イ）は 77%と高頻度であった。内臓脂肪肥満 12 名は皮下脂肪肥満に比ベイは $44 \mu\text{U/ml}$ 対 15、収縮期血圧は 129 対 113 と有意に大。内臓脂肪が多いとイの効きが悪くなることから、その解消のため食事運動生活習慣を指導し 2 年間で肥満は 13%、腹囲大は 25%減へ改善した。外来：イ不全症 1 群（高血糖で高イなし）は 21 例、3 群（血糖・HbA1c 異常と高イ血症）は 13 例（うち高血圧 58%）。健診の 9 例は 2 群（血糖正常で高イ）で BMI ≥ 24 、腹囲男 $\geq 85\text{cm}$ 、女 $\geq 80\text{cm}$ と高 TG 血症が共に 67%であった。健診で内臓脂肪レベルと食後イ値は有意相関あり。（ $n=31$ 、 $r=0.45$ 、 $p<0.05$ ）過剰脂肪組織によるイ良作用の抑制が明らかである。

【結語】標準食後 2 時間検査で、空腹時で不明の IGT を検出し早期に指導ができる。高血圧、高LDLコレステロール、メタボの者で高イの頻度が高くイとの関連が大であった。イ不全症は 77%で、イの効きを良くするため減量が必要と説明し指導を進めていく。